

**日本版畜産GAP策定等支援事業
(うち日本版畜産GAP規格化関連)に関する事業評価票**

事業実施主体名	一般財団法人 日本GAP協会
事業の概要	我が国畜産物の輸出拡大等に向けて、日本発の畜産GAPの策定・運用を支援するため、日本版畜産GAP策定に向けた検討、国内及び諸外国の畜産物に関する認証制度の実態調査、日本版畜産GAPの基準書の作成、日本版畜産GAPの指導員の育成を行う。
成果目標の具体的内容	日本版畜産GAP基準書の作成・公表、英語等外国語への翻訳とこれを用いた海外向けセミナーの開催、100名以上の指導員の育成
成果目標の達成状況	日本版畜産GAPについての海外向けセミナーは実施されなかったものの、基準書作成・公表及び英訳、延べ339名の指導員育成など、概ね成果目標が達成されている。
総合評価	<p>A : 計画以上の成果が見られる</p> <p>B : 計画どおりの成果が見られる</p> <p>C : 計画どおりの成果が見られない</p>
総合所見	<p>本事業の主目的である「日本版畜産GAP」の策定に向けて、JGAP家畜・畜産物の基準書を平成29年3月31日に公表、延べ339名の指導員を育成し、平成29年8月21日から平成30年3月末までに26経営体が認証を取得するなど、着実に成果が認められている。</p> <p>なお、成果目標のうち海外向けセミナーの開催については実施に至らなかったものの、国際会議に参加した際にブースを設置し、各国の参加者に対して日本版畜産GAPについて広報活動を実施しており、概ね計画どおりの成果が得られたと認められる。</p>

**日本版畜産GAP策定等支援事業
(うち日本版畜産GAP定着化関連)に関する事業評価票**

事業実施主体名	公益社団法人 中央畜産会
事業の概要	我が国畜産物の輸出拡大等に向けて、日本版畜産GAPの定着化を支援するため、日本版畜産GAPの審査員の育成、グローバルGAPの認証取得拡大に向けた検討会の開催、並びに日本版畜産GAPやグローバルGAPの認証取得を目指す生産者等が生産工程の記録を管理するシステム(生産工程記録管理システム)の構築を行う。
成果目標の具体的内容	審査員養成検討委員会、グローバルGAP取得推進検討委員会、生産工程記録管理システム検討委員会、事業推進検討委員会をそれぞれ2回、審査員等養成研修会を3回開催 生産工程記録管理システムの構築・公表
成果目標の達成状況	成果目標に掲げられた委員会・研修会等を計画どおり実施し、生産工程記録管理システムとして「GAP取得チャレンジシステム」を構築・公表するなど、概ね成果目標が達成されている。
総合評価	<p>A : 計画以上の成果が見られる</p> <p>B : 計画どおりの成果が見られる</p> <p>C : 計画どおりの成果が見られない</p>
総合所見	本事業の主目的である「日本版畜産GAP」の定着化に向け、JGAP家畜・畜産物の審査員補を計55人育成し、平成29年8月21日から平成30年3月末までに26経営体が認証を取得するとともに、平成29年8月31日にGAP取得チャレンジシステムを構築・公表し、平成30年3月末までに19農場を取組農場として公表するなど、着実に成果が認められており、概ね計画どおりの成果が得られたと認められる。

日本版畜産GAP・グローバルGAP取得拡大事業に関する事業評価票

事業実施主体名	公益社団法人 中央畜産会
事業の概要	我が国畜産物の輸出拡大等に向けて、生産者を対象とした日本版畜産GAPの認証取得のための研修会の開催や認証取得のための経費の支援、付加価値のある畜産物として流通する環境を整備するための検討会の開催、エコフィールド認証の取得を支援するための研修会の開催や実態調査、認証登録費への支援などを行う。
成果目標の具体的内容	日本版畜産GAP認証等取得のための研修会、GAP認証取得畜産物の流通対策検討委員会、エコフィールド認証取得のための研修会、事業推進委員会等の開催 分別生産流通管理の取組に対する機材整備 25 経営体の日本版畜産GAP認証取得 エコフィールド利用畜産物の実証調査の実施等
成果目標の達成状況	分別流通管理の取組に対する機材整備は実施されなかったものの、成果目標に掲げられた委員会・研修会、エコフィールド利用畜産物の実証調査等を概ね計画どおり実施した。日本版畜産GAPの認証取得は時間的に難しいと想定されていたが、26 経営体の日本版畜産GAP認証取得や、19 件のエコフィールド認証の取得支援が行われるなど、計画以上の成果が得られたものもあった。
総合評価	A : 計画以上の成果が見られる B : 計画どおりの成果が見られる C : 計画どおりの成果が見られない
総合所見	成果目標のうち分別流通管理の取組に対する機材整備については、機材整備により分別流通管理が可能となる農場の選定までには至らず、機材整備への支援は実施できなかった。 一方、本事業の主目的である「日本版畜産GAP」の認証取得拡大に向け、農場 HACCP 認証農場を対象に研修会等を実施し、平成 29 年 8 月 21 日から平成 30 年 3 月末までに 26 経営体が認証を取得するとともに、19 件のエコフィールド認証の取得支援が行われるなど計画以上の成果も認められた。 このことから総合的に勘案し、総合評価を B とした。